

令和3年度 第3回学校運営協議会 報告

- 1 会議 紙面開催
- 2 出席者 学識経験者、地域住民代表、地域教育関係者、保護者代表
- 3 議題 (1) 学校教育自己診断について
(2) 学校経営計画および本校の教育活動等について
(3) その他
- 4 協議内容(説明および意見提言)
 - (1) 学校教育自己診断について
 - 【生徒・保護者の両方】
 - 5) 北千里高校には、地域と連携した特色ある取り組みがある
 - 6) 北千里高校には国際理解を深めることができる取り組みがある
 - 【保護者】
 - 22) 本校の学校行事や授業参観に参加したことがある
⇒肯定率が低下。
 - 23) 本校は、メールマガジンやプリントなどで学校の情報を伝えてくれている
⇒肯定率が上昇。
*昨年度に引き続き、コロナ禍の影響もあると考えられる。様々な活動が可能となれば回復するものもある。学校に来る機会が少ない分、進路情報の提供などメールマガジンでの情報発信を増やすことなどを意識した結果としては、一定の効果があった。
 - 【生徒】
 - 41) 少人数クラスになったことで理解度があがった
 - 42) 少人数クラスになったことで学習意欲があがった
⇒大きく肯定率が低下。
*少人数展開の効果が十分得られず、授業の工夫が必要。
 - 【教職員】
 - 10) 学力を補完するためには補習・講習も必要だと感じている
 - 16) 本校の生徒指導の方針は適切であると思う
 - 21) 様々な問題行動の防止のための早期指導に学校全体で心がけている
 - 24) 将来の進路や生き方について考える機会を設けるように学校全体で心がけている
 - 36) 日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談しあえるような職場の人間関係がある。
⇒10%程度肯定率が低下
*学校運営に関わる項目の数値が低いことは引き続き課題として認識。
GIGA スクール構想やヤングケアラーの課題など多くのことが学校に課せられる中で、教員の多忙化が加速している部分がある。教員どうしてコミュニケーションがしっかりとれる時間や気持ちの余裕が持てていないと感じているのではないか。
 - 31) 学校運営に、教職員の意見が反映されている
 - 39) 研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている
⇒10%程度肯定率が上昇
*分掌組織を5分掌から4分掌へ改編しての最初の1年。より機能的な組織をめざす。分掌等の会議を時間割の中に設定した一定の効果はみられたのではないか。

<意見・感想など>

【生徒】

- ・「学校が楽しい」と肯定的な評価をしている生徒の割合が高く、学校生活に満足している様子がうかがえる。
- ・少人数指導については、本来、満足度が高いはずだと思うが、結果は意外であった。その要因は何か。

【保護者】

- ・「入学してよかった」⑳の項目で高い評価が得られており、保護者からの信頼を得ている様子がうかがえる。
- ・進路に関する情報提供・相談の評価の低さが気になるが、どのようなニーズがあるのか、手段は適切なのか、検討してみる必要があるのではないか。
- ・公立小学校においても、今年度行った学校教育自己診断で、前年よりも評価が横ばいや下がった項目が、特に保護者アンケートにおいて多かった。コロナ感染症が原因とは特定できないが、その影響を受けているようにも考えられる傾向も見受けられ、閉塞感の中の子育てにさらに学校が保護者と連携していく必要を感じている。北千里高校においても同じような傾向があるように思える。

【教職員】

- ・31)～36)の評価の極めて低いことの要因は何か。チーム学校として、具体的にどのような問題があるのか、学校運営に係る極めて重要な課題があるのか。これらの点について、具体的な改善策はどのようなものか。
- ・気軽に相談しあえるような職場の人間関係についてのスコアが大きく低下している。R2のスコアが高めであったことのゆりもどしととれるが、コロナ禍によるプラスαの業務負担やコミュニケーションの機会の喪失などが原因とも考えられる。
- ・「学校運営に、教職員の意見が反映されている。」の項目の肯定回答が上昇しており、学校運営に参画する教職員のやりがいにつながっていくと考えられ、校長先生の工夫や努力を感じます。

(2) 学校経営計画および本校の教育活動等について

<説明>

【令和3年度学校評価（案）について】

裏面の自己評価に今年度の評価を入れたので、ご確認いただきたい。

【令和4年度学校経営計画（案）について】

目標：授業の取り組みにより、自分で考える生徒、学びの主体者となる生徒をつくる

⇒受け身の授業ではなく、生徒が学習活動を通して疑問に思ったり、実生活の中での活用場面を考えたり、他教科との学習を結び付けたりしながら、学びの内容を自分に必要なこととしてとらえていけるように仕掛けをすることが観点別評価であると考えたとよいのではないか。単に知識を伝えるだけの時代ではなくなってきている。授業者に求められているのは、アウトプットの場を作ること、学びに向かうファシリテーターとなることである。

体験し感じる人権感覚が、本当の人権意識を作っていく。自分自身の中に差別感情があるということに気づくことも大事であるし、違いが認め合えたらみんなが楽になるという感覚を感じることも大切。

地域との交流は、机を離れて自分自身をためすよい学習機会となる。来年度は、多くの部活動やクラスで参加するボランティア活動を決めたり、参加する行事を探したりということを生徒会や学年が音頭を取って仕掛けてほしい。総合的な探究の時間の課題としてもよい。外部の人に触れる、評価される経験は生徒たちを成長させるという視点で、積極的に取り入れていく。

<意見・感想など>

○学校経営計画及び学校評価について

1 授業の充実

- ICT の活用、アクティブ・ラーニングの充実の推進
- 少しずつだが、推進が図れている。新しい学力観の生徒の先生方への評価も高まってきている。

2 豊かな人間性の育成

- 人権教育の充実が推進されている
- 部活動の加入率、学校行事の満足度が90%以上の高い数字
- 学校教育自己診断の「先生たちはお互いに協力しあっている」の肯定的評価が高い。学校運営で一番大切なことである。
- 中期的目標にある「豊かな人間性の育成」という項目が、今まで以上に大切になってくるのではないかと。特にアンケート項目の「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」については、肯定的評価が下がってきており、機会があれば、講演会やオンラインでの学習も含め、ポイントの維持に繋げていただきたいと感じた。

○本校の教育活動等について

• 学年～生徒の様子から～

生徒自身も新しい生活様式に慣れ、充実した高校生活を送るための努力を重ねたと思いますが、そのために先生方も随分とご苦労をされたことが修学旅行などの行事の工夫などからもわかった。

- コロナ禍が続く中、教職員は工夫しながら、生徒のためによく頑張ってくれている。教職員の方々、お疲れ様です。

(生徒部)

「生徒主体」の進め方が根付いてきており、一人ひとりの成長が見えてきて、いいことである。

(進路指導部)

指導方針の「共通テスト」から「一般入試」を受験する生徒が多くなってきて、いい傾向である。

(3年)

厳しい状況の中で、勉強、部活動、学年行事の3分野に全力を尽くしたという評価は素晴らしい。

(2年)

大変な中、北海道の修学旅行に行けて良かった。一生の思い出になる。

(1年)

2学期に入り、北千里の特徴である様々な体験ができて良かった。夏休み明けから欠席が増え、進路変更する生徒がいたのは残念。

- 2年生は、入学当初からコロナ感染症の影響を受け続けてきた学年。各種行事が延期され規模縮小を余儀なくされるなど、生徒も教員も残念で大変な経験をしてきたものと拝察する。そうしたなか、予定通りの修学旅行が実現出来たのは、ひとえに先生方の努力や準備、的確な決断力によるものと思います。ただ、大学でも同様だが、アンケートを実施するとこの学年の適応指標が他の学年に比べて良くない、仲間作りがうまくいかない者がいるなど、注意を要する学年でもあり、引き続き先生方の細やかな指導やサポートをお願いしたい。

(3) その他（全体を通して）

<意見・感想など>

- 今年度も休校、コロナ感染者や濃厚接触者などの対応では、オンライン授業が実施されている。前回の協議会でデモンストレーションをしていただいたように Google Meet を活用して効率的・効果的な教育がおこなわれたと思う。これからは、補償的な意義をこえて、オンライン授業の強みや利点を活かした教育が展開されていくことを期待する。同様に、講演会などの行事のオンライン化や進路調べの web 実施は、実施者と参加者（回答者）双方の負担軽減や参加のしやすさの点からもぜひ継続的に実施していただくのが望ましいと思う。
- 小学校との交流について
機会があれば北千里高校の生徒さんと本校の児童との交流を考えていたが、行事や予定が緊急事態宣言のためや、分散登校などのため見通しが立たず、今年度もできなかったことを残念に思う。
次年度は、計画を早めに立て、実現に向け検討し少しでもできれば、生徒・児童の良い経験につながるのではないかと思う。
- コロナ禍が続く中、学習方法や学校行事の変更が頻繁かつ急な対応が求められ、先生方、学校側も大変ご苦労されていると感じる。
生徒たちも、クラブ活動の制限や、行事の中止、休校が相次ぎ、不安な毎日を過ごしている状況の中、生徒たちのことを考え、出来る範囲で精一杯、学生生活をサポートいただいている状況を紙面から感じとることが出来た。本当に感謝しております。
近年、新聞紙面やニュースで、学校における生徒同士の事件を目にする機会が増えたように思う。このコロナ禍の状況の中、生徒同士の関係が希薄になってきているのか、また、その当事者自身の心の問題であるのか、様々な要因が複雑に重なっているように感じた。
大学でも、心理学部が新しく開設されたり、心理学科が心理学部となったり、生徒の増員を図ったりするところが出てきており、心のケアや人間関係のケアが、現代の新たな課題として認識されている。
- 前代未聞の社会情勢の中、教職員の皆様のご努力は如何ばかりかと拝察する。また生徒さん達も、コミュニケーションが十分に取れない環境でないかと思う。
一方、昨年 11 月に北千里公園で行われた「チャレンジ DAY」には、ダンス部やサッカー部が参加された事は、非常に貴重で重要な事だったと考える。
今年はコロナも少し落ち着く様なら、地域連携のお手伝いも出来ればと願っている。
何とか乗り越えて共に頑張りたいと思う。

5 議決事項

- 令和 4 年度学校経営計画
→承認